



はじまりの4人で
「これからのOURHOME」
を話してみた。

代表、Emi、佐藤、山崎。
創業メンバー4人が想像する“これから”って？

今のOURHOMEになるなんて、
誰も思ってたかった!?

Emi: OURHOMEを法人化してから7年間、毎月創業メンバーのこの4人で1ヶ月の振り返りや、やりたいことを話してきたね。でも、直近のことがほとんどで、すごく遠い未来のことを話したことってないかも？

山崎: 確かにそうですね。良平さん(代表)は法人化してから、今みたいなOURHOMEになるって想像してましたか？

代表: 思ってたかな。数年前に、スタッフみんな「OURHOMEの建物ができて、シンボルツリーがあつて」なんて、妄想のイメージマップを作ったやん？あの時、こんな風になったら面白いとは思ったけど、今はそれ以上になっている気がする。

Emi: イメージマップは気分転換として作っただけだったのに、それを超えてOURHOMEの建物ができて、お客さまにも恵まれて、もっと大きくなりたいとか、これ以上のことを望むなんてとんでもない！っていう気持ちはあるかな。でも、スタッフに「10年後のOURHOMEはどうな

か。自分たちが興味のあることと仕事为重なり合ったら、めちゃくちゃ幸せな人生だなって。これはスタッフみんなにでもらえたら嬉しいなって思う。山崎: 確かに、関心のあることと掛け合わせられたら最高ですね！

Emi: 30歳で独立した頃は片づけや子育てに興味関心があつたけど、最近は何と時間の過ごし方や体のケアに興味が変わってきてるなって思う。これから社内で運動サークルみたいな集まりができたなら、そこからお客さまにも新しい何かをお届けできるかもしれないね。

山崎: それに、子どもたちから広がっていくこともある気がします。
Emi: 子どもがOURHOMEで働きたいって言うてる！っていうスタッフもいるもんね！まだ小さい子ども自身が働きたいって言うてくれるのはすごいなって思った！きつと仕事を運んでくれることもあるんじゃないかな。

代表: OURHOMEは今までも、商品やこの建物にしても「人」が運んでできてくださったもんな。

てると思う？」って聞いたたら、いろんなアイデアが出てきて(P18)、それはすごく嬉しかった！

海の見える場所にホテル？
子どもがOURHOMEで働く？

佐藤: 個人的な妄想も話しちゃつていいですか(笑)？
夫と新婚当時、老後は海の見える場所で柴犬を飼って暮らしたいねって話してたんです。で、60歳なんてもうあつという間だし、どうしようと思った時に、OURHOMEの力を借りられたら！って。
Emi: うんうん(笑)。

佐藤: お客さまもスタッフも泊まれるような場所

をつくつて、私はその管理人をする(笑)！

Emi: なるほどねー！宿とかホテルはちよつと面白そうだなって思うし、お客さまが泊まれる場所があるのはいいね！大規模施設は難しいかもしれないけど、お客さまが泊まれて、スタッフみんなも孫を連れて泊まりに行ける保養所も兼ねた宿泊施設！楽しそうー！

佐藤: そして、車好きの私佐藤が選んだレンタカー付きプランとか!? OURHOMEステッカーを後ろに貼つて。

Emi: いいやんそれ(笑)！自分が興味のあることと仕事を結びつけていけたらいいよね。これから歳を重ねたときに趣味がテニスならテニスウェアと

左から 佐藤、Emi、山崎、代表

Emi不在の日は、
AI Emiが接客～◎

西宮に
“OURHOME村”ができて、
移動はセグウェイに

メンズ&
キッズウェアが登場!

スタッフの子どもが
バイト&
入社してるかも!?

若いスタッフが増えて、
男性もいるかも?

VRで遠方からでも
試着OKに

ウィッグや補正下着、
介護アイテムもつくってる

スタッフの妄想

10年後
どうなってる? //



お仕事体験もできる
OURHOME
ツアー旅行を開催!

腰が痛いだろうから
お品物のピック、
重いものはロボットに
お任せ!笑

BAR OURHOME
が開店～!

これからも ourhome をよろしく願っています

「プラスの気持ち」を
お客さまにお届けする。

Emi: 私がずっと思っていることのひとつが、会社で過ごす時間の中に、涙を流すほど笑える瞬間があったらいいなってこと。今もみんなで大笑いしてるけど、この先もずっとそうありたいなって。お客さまにも、笑いを提供できる会社になったらいいのかな? 代表: 笑いだけじゃなくて、楽しいとか、おいしいとか、プラスの気持ちを提供できたらいいと思うな。Emi: プラスの気持ちを提供する、それは本当にそうやね! おいしい、楽しい、届いてうれし。

代表: 今やっていることもそうで、それはOURHOMEだけじゃなくて世の中の企業の本質やと思う。Emi: うん。そしてお客さまのためだけじゃないのが、OURHOMEらしさじゃないかな。自分が楽しい、好きっていう気持ちが大それたと思うんよね。私たちが楽しいから、お客さまも楽しい。OURHOMEのウェアやバッグを使っているスタッフがすごく多いけど、そんな会社って実は珍しいんじゃないかな。だから、自分たちの好きっていう

気持ちを大事にしたいし、この先もそこは変えずにやっていきたいな。

これまでもこれからも
「困りごとの解決」がベース。

代表: OURHOMEは、子どもが小さい暮らしの中でモノづくりや情報発信をしてきた。でも、子どもが大きくなった後の、まだ自分たちにも見えていない未来の世界があって、お客さまに楽しんでもらえる新しい何かがこの先見えてくる気がする。Emi: たえば女2人旅とか、推し活とか。同じ趣味を持つ人たちが集まって旅行したり。で、私たちは推し活の時に使いたいバッグを考えて作るのかも!?

山崎: 作ってそう! うちわが入るやつとか(笑)。Emi: まだ見えてない世界があると思ったら、おもしろいね。商品企画もまだまだできそう! 佐藤: OURHOMEは困りごとを解決することがベースだもんね。Emi: うん。こうやって話してみたら、4人の中にはもっと大きくなりたい! ってイメージはなくて。



これからの人の縁と、目の前の困りごとを解決することで進んでいくんやろうね。お婆ちゃんになったら、ちよんどの杖や押し車なんかを企画してるかも笑。これからお客さまと一緒に歳を重ねていきたいですね。